



しあわせの島「奄美」

日々の暮らしから、未来へつながる食と農

食と農の 総合戦略

2025

奄美市

CONTENTS



01	戦略策定の背景と目的	01
02	食と農の現状と課題	02
03	奄美市行政計画体系上の位置づけ	03
04	戦略の構成	04
05	重点的に取り組む3つの視点	05
06	目標	08
07	食と農を軸としてめぐる「しあわせ」	09
08	みんなの取組み	10
09	スケジュール	11
10	しあわせの循環を育て続けていくために	12
11	主なアイデア(参考)	13

01 戦略策定の背景と目的

はじめに

たくさんの声から、ひとつの風景へ

畑のこと、海のこと、家の食卓のこと。
昔の話や、いまの暮らしのこと。
ひとつひとつは、誰かの日常の言葉。

けれども、それらを重ねていくと、
奄美の暮らしの中に、ひとつの風景が浮かび上がってきました。

それは、自然や歴史、文化とともにあり、
人の営みのそばに、いつも「食と農」があったという風景です。

この当たり前の風景は、あまりにも暮らしに溶け込んでいたために、
振り返る機会が少なかったかもしれません。

この戦略は、たくさんの市民の言葉に耳を澄ましながら、
奄美の食と農を「しあわせの島」へ手渡していくために
日々の暮らしの中に位置づけ直すものです。

【みんなの言葉を集めた取り組み】

- ①住民アンケート(1,144人/回答)
- ②住民ワークショップ(29人/回)
- ③戦略策定会議3回/年(のべ、48人参加)
- ④関係者ヒアリング9人

「本戦略は、行政計画であると同時に、市民と共有するための“対話のための冊子”として構成しています」

もう一度、くらしへ

たくさんの言葉から見てきた食と農の変化は、
産業の課題であると同時に
私たちの「くらし」と「食と農」の距離が少しずつ離れていることの表れ
でもあります。

奄美の豊かな自然の中で育まれてきた営みを
これからも大切にしていくために
食と農を身近に感じられることが大切です。

これからの食と農

島で暮らす私たちが
島の食材を選び、
小さな畑や庭先で野菜や島の作物を育ててみましょう。
そうした日々の積み重ねが、生産者の営みと重なり、
私たちの食卓を支えていきます。

奄美の食と農は、
こうした循環の中で
次の世代へ自然に受け継がれていきます。



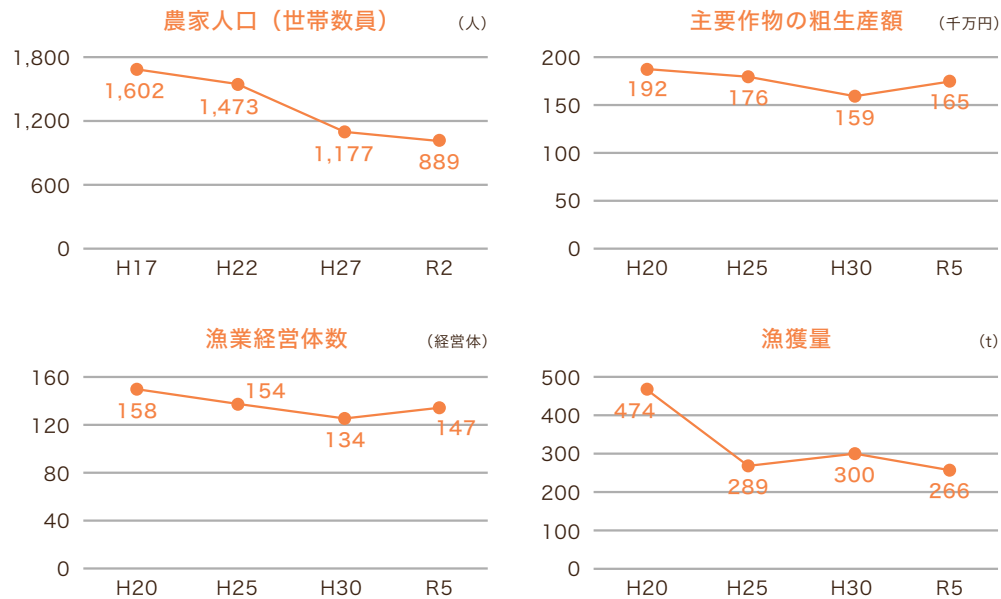
02 食と農の現状と課題

農の現状

奄美の農業・水産業・畜産業は、あたたかく雨の多い自然の中で行われています。この自然は、野菜などの農作物や海のめぐみである魚、そして、家畜を育ててくれる一方で、台風や大雨など、自然と向き合わなければいけないという厳しい一面もあります。

生産量や経営体数といった数字の変化は、単なる統計ではなく、島の営みが転換期を迎えていることを示しています。

いま、奄美の食と農は、これまで積み重ねてきた価値を次へどうつなぐかが問われています。



こうした変化を踏まえ、これからの奄美の食と農のあり方を暮らしの視点から見つめ直します。

生産現場から見える課題

奄美市の農業・水産業・畜産業は、私たちの毎日の食を支える大切なしごとですが、いくつかの共通した課題があります。

①台風や大雨、海の状況の変化など、自然の影響を受けやすいこと
自然のめぐみがある一方で、安定して一次産業を続けることが難しい側面があります。

②しごとをする人が減ってきていること
高齢化が進み、しごとの大変さや将来の不安から次を担う人が少なくなっています。

③収入が安定しにくいこと
天候や価格の変動、離島が故の輸送コストの負担などがあります。

④しごとの大切さや魅力が見えにくくなっていること
食べものがどのようにつくられ、誰が関わっているのかを知る機会が減っています。

日々の暮らしから見える変化

私たちの食卓は豊かで選択肢が広がっています。島の食材が並ぶこともあれば、島の外から届いた食材が並ぶこともあります。しかし、その中で島の食や農とのかかわり方は、少しずつ変わってきているのかもしれません。

①一次産業が身近に感じられないこと
昔はもっと身近だった農業や漁業も、今は誰が何をしているのかわかりにくく、しごとの大変さややりがいも見えにくくなっています。

②地元の食べものを知り、手に入れ、日常で使うことがむずかしいこと
「地元のものをもっと食べたい」「どこで買えるかわからない」「どう使えばいいかわからない」といった声があります。

③一次産業に関わる入口が少ないこと
「応援したいけれど、自分に何ができるかわからない」と感じる市民が多く、学んだり体験したりする機会が限られています。

④次世代への知識や誇りの継承が弱まっていること
子どもや若い世代に、島の食や農の大切さ、自然や文化の価値を伝える機会が減っています。

04

戦略の構成

奄美市総合計画「未来の奄美市づくり計画」

将来像

自然・人・文化が紡ぐ
しあわせの島

自然もひと多様性を尊重し合えるなつかしい未来都市奄美市

基本理念

【くらし】

みんなで生活満足度向上を目指そう

【しごと】

成長の源泉となる元気な経済活動を目指そう

【つながり】

未来を担う次世代へ「しまの誇り」を継承しよう

奄美市「食と農の総合戦略」【期間：令和8年度～令和20年度】

しあわせの島「奄美」

日々のくらしから、未来へつながる食と農

【くらし】

食と農が日常の豊かさを支えるくらしを目指そう

【基本原則】

日常の中で、「食ること」と「つくること」の循環が続けられることを大切にします

【しごと】

食と農を軸に、島の生業が持続的に循環することを目指そう

【基本原則】

規模の大小にかかわらず、地域の中で続いていく「島のしごと」を大切にします

【つながり】

食と農を通じて、ひと・地域がつながり続ける関係性を育もう

【基本原則】

日常の関わりを通じて、くらしと人のつながりが「食文化」として受け継がれることを大切にします

05 重点的に取り組む3つの視点

1 暮らし

[基本的な考え方]

食と農が日常の豊かさを支える暮らしを目指そう

[基本原則]

日常の豊かさと生産の再接続

日常の中で、「食ること」と「つくること」の循環が続けられることを大切にします

奄美では、食と農は特別なものではなく、昔から暮らしの中に溶け込んできました。そのため、身近であるがゆえに意識されにくくなっている側面があります。

新たな取り組みを生み出す前に、日常の中にすでにある食と農の価値にあたらめて気づいていきます。



1

[取り組む方向性]

身近な食と農に気づき、島の食材を選ぶきっかけづくり

[主な取り組み案]

- ・地産地消を意識し、奄美らしい日常を実感できる場づくり
- ・家庭菜園をもっと身近に感じられる環境づくりと技術的なサポート
- ・島の食材の多様な価値(健康、歴史など)の発信 など

2

[取り組む方向性]

地域から食卓へ、日常に感じる食の循環づくり

[主な取り組み案]

- ・地域の生産と需要を結ぶ情報発信
- ・学校(給食)や地域と連携した地産地消の推進
- ・家庭で実践できるレシピ、食べ方の発信 など

05 重点的に取り組む3つの視点

2 しごと

[基本的な考え方]

食と農を軸に、島の生業が持続的に循環することを目指そう

[基本原則]

奄美の風土を活かした生業の循環

規模の大小にかかわらず、地域の中で続いていく「島のしごと」を大切にします

食と農を軸にした島の生業が、特定の担い手に偏ることなく、地域の中で続いていくことを大切にします。

家庭菜園や小さな畑など、くらしの中での農との関わりは、食を身近に感じる体験であり、生業へとつながる一歩です。

こうした日常の実践が、生産から消費までをつなぎ、島のしごととして循環していくことを目指します。



1

[取り組む方向性]

地域資源を活かした持続可能な農林水産業の未来づくり

[主な取り組み案]

- ・チャレンジする事業者の支援
- ・ノウハウ、農地、機械などの資源を次世代に継承する仕組みづくり など

2

[取り組む方向性]

奄美ならではの伝統・風土が織りなす特色づくり

[主な取り組み案]

- ・島の風土に適した伝統野菜などの継承
- ・奄美の地域特性を活かしたブランディングの推進 など

05 重点的に取り組む3つの視点

3 つながり

[基本的な考え方]

食と農を通じて、ひと・地域がつながり続ける関係性を育もう

[基本原則]

食文化そのものである人の結びつき

日常の関わりを通じて、くらしと人のつながりが「食文化」として受け継がれることを大切にします



奄美の食と農は、島の内外で人や場と結びつき、日常のくらしや様々なしごとの中で、すでに活かされています。

地域で受け継がれてきた食文化や、島外で評価され、選ばれている食材の背景には、多様な人の関わりと積み重ねがあります。

こうした見えにくいつながりや価値を捉え直し、学びや交流、記録や発信を通じて共有することで、島内外の関係性が次の世代へとつながっていく環境をつくります。

1

[取り組む方向性]

食と農の誇りが次世代へつながる環境づくり

[主な取り組み案]

- ・多世代で食と農の価値や知恵を学び、分かち合う体験・交流機会の創出
- ・地域の行事や歴史と結びついた食文化の記録と発信
- ・土産土法から学ぶ食と農のつながり など

2

[取り組む方向性]

島内・島外との多様なつながりが
新たな可能性を生む仕組みづくり

[主な取り組み案]

- ・生産者と地元飲食店等が交流できる機会の創出
- ・島外のファンと生産者を結び、継続的なつながりの構築
- ・農と観光、農と福祉など他分野との連携による取り組みの推進 など

※土産土法：その土地で採れた農産物などをその土地に伝わる方法（調理法・知恵）で料理し食べること。

06 目標

目標項目	基準値 (R7)	目標値 (R9)	目標値 (R13)	目標値 (R17)	最終目標値 (R20)
① 奄美産のやさいを「よく食べる」と回答した市民の割合	— (R8に設定)				
② 奄美産のくだものを「よく食べる」と回答した市民の割合	— (R8に設定)				
③ 奄美産の肉やたまごを「よく食べる」と回答した市民の割合	— (R8に設定)				
④ 奄美産のさかなを「よく食べる」と回答した市民の割合	— (R8に設定)				
⑤ 家庭菜園や市民農園、畑などで農業に親しんでいる市民の割合	— (R8に設定)				
⑥ 農業・漁業に従事していることについて「満足している」と回答した従事者の割合	— (R8に設定)				
⑦ 将来、奄美の農業・漁業や食文化に関わる仕事・活動へ「興味がある」と回答した高校生以下の市民の割合	28.1%	28.9%	30.5%	32.2%	33.4%

令和8年度の調査を踏まえて
目標値、最終目標値を設定します。

※⑤は農家(専業・兼業)を除きます。

07 食と農を軸としてめぐる「しあわせ」



食と農のしあわせつながり

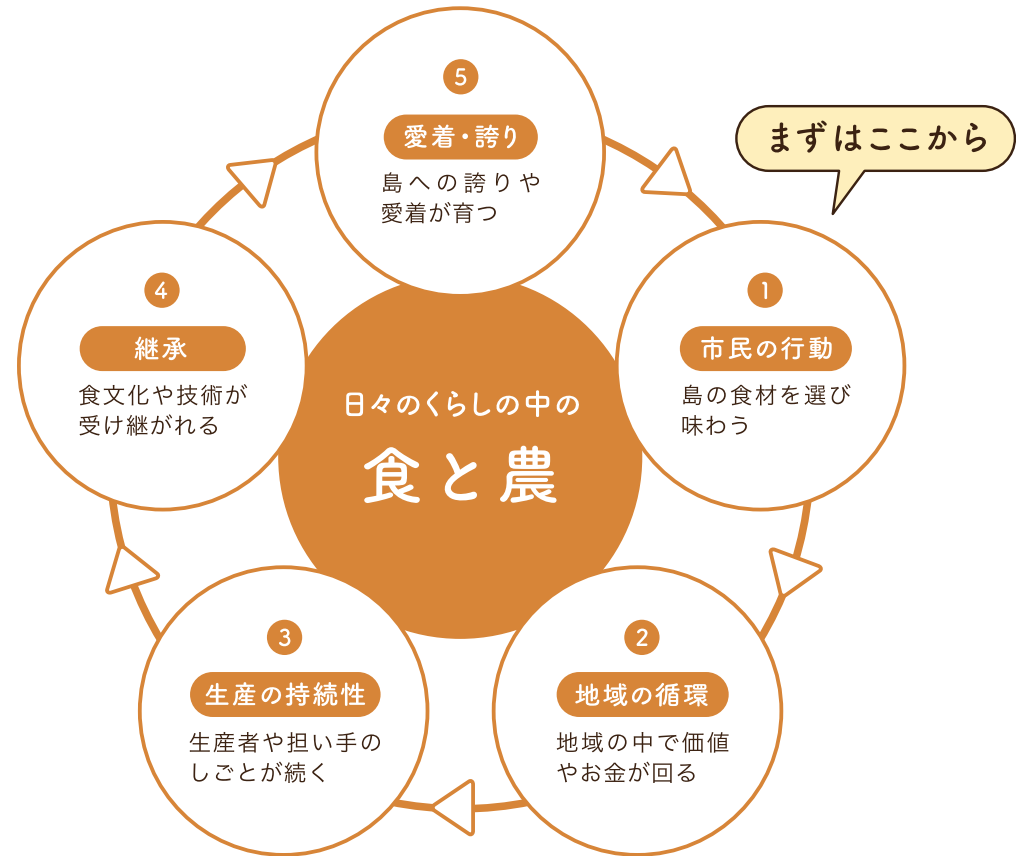
奄美の食と農は、市民一人ひとりの暮らしの中に根ざしながら、島の内外で人や場と結びつき、循環しています。

島の食材を選び、味わう日々の行動は、地域の中で価値やお金が回ることにつながり、生産者や担い手のしごとを支えます。

そうした営みの積み重ねが、食文化や技術を次の世代へと受け継ぎ、島への誇りや愛着を育てていきます。

そして、その誇りが再び島の食と農を選ぶ力となり、循環は続いていきます。

この「しあわせの循環」を大切に育てていくことが、奄美の食と農を未来へつなぐ基盤になります。



この循環を支えるために、暮らし・しごと・つながりの視点から取り組みを始めます。

08 みんなの取組み

みんなで育てる 島の食と農

この戦略は、島で暮らすみんなの「日々の暮らし」の中で形になっていくものです。だからこそ、食べものをつくる人、お店を営む人、行政や関係する団体、そして島に住む一人ひとりが主役になりそれぞれの立場で関わりながら進めていきます。

「しごと」としてだけでなく、「暮らし」や「人とのつながり」という、私たちの日常にある温かな目線を大切にしながら、奄美の豊かな食と農が未来へ向かって自然に回り続ける仕組みを、みんなで育てていきます。



暮らし

食と農が
日常の豊かさを
支える暮らし

野菜の作り方を教えてもらえるので家庭菜園がたのしい



できること

- わたし**
 - 島の食材や身近な作物を日々の食卓でつかう
 - 家庭菜園や小さな栽培をする
 - 食や農について、知ったこと・感じたことを身近な人に話す
- 企業**
 - 島の食材を取り扱う
 - 食材の背景や作り手を市民や購買者に伝える
- 行政**
 - 市民や企業の実践が始めやすく、続けやすい環境を整える
 - 日常の取組みを見える形で共有・発信する
 - 暮らしの中の食と農の価値をわかりやすく伝える

しごと

食と農を軸に
島の生業が
持続的に循環する

一緒に「儲かる農業」をしよう!



島の魚はとっても質がいい!

できること

- わたし**
 - 島の食材や商品を選び続ける
 - 生産や栽培の背景に関心を持つ
 - 応援したい生業を、自分なりのかたちで支える
- 企業**
 - 未来へ続く島のしごとを育てる
 - 生産者や他の事業者とつながり、学び合う
 - 奄美の風土や知恵を活かした価値づくりに取り組む
- 行政**
 - 食と農に関わる情報が集まり、活かされる土台を整える
 - 事業者同士の連携や挑戦を支え、つなぐ
 - 続けるための課題解決をともに考える

つながり

食と農を通じて
ひと・地域が
つながり続ける関係性

郷土料理を一緒に作りましょう

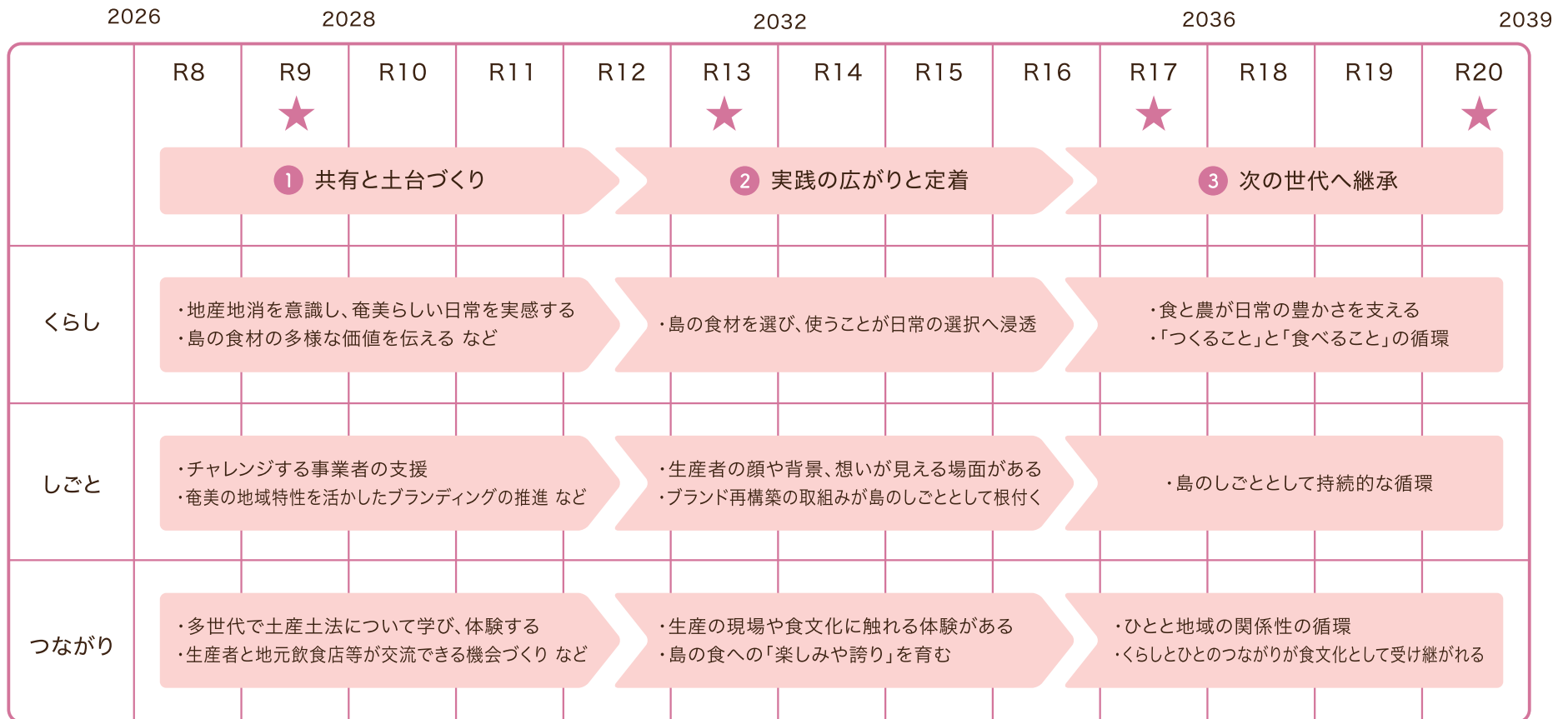


できること

- わたし**
 - 地域の行事や学びの場に参加する
 - 食と農をきっかけに、人とつながる
 - 島の食文化を身近な次の世代に伝える
- 企業**
 - 食と農を通じた交流や学びの場に関わる
 - 生産物や商品の新たな価値につなげる
- 行政**
 - 出会いや交流が生まれる場やきっかけをつくる
 - 地域の取組みや思いを記録し、伝える
 - 次世代へつなぐ取組みを支え、後押しする

09

スケジュール



★ 戦略の取り組み状況の確認・見直しを行います。

10

しあわせの循環を育て続けていくために

「しあわせの循環」を育て続けていく

奄美の食と農のPDCAサイクル

	計 画 (P)	実 行 (D)	評 価 (C)	改 善 (A)
	指針づくり	「結」の実践	実感の分かち合い	次世代へのアップデート
内 容	「みんなの言葉」をベースに 具体的プロジェクトを立案	地産地消マッチング 食文化ワークショップの実施など	統計データに加え、市民の「納 得感」や「誇り」を定性的に確認	うまくいった取り組みを仕組み化 し、課題が見えた部分はやり方 を見直す
奄美らしさ	みんなの「こうしたい」を反 映した、顔の見える計画づ くり	既存の「結(助け合い)」の仕組み を活かした、スモールスタートで の実践	「数字」だけでなく、「地元の野 菜がおいしくなった」「子どもが 島の料理を喜んだ」といった実 感の声を評価に組み込む	得られた知恵を「土産土法」とし て整理し、次世代が取り組みやす い形に整える

この戦略は、日々の暮らしの中で生まれる実践や気づきを受けとめながら、必要に応じて見直し、育て続けていくための「道しるべ」です。

11

主なアイデア（参考）

「みんなの言葉」による具体的なアイデア

視 点	課 題	主なアイデア
くらし	<p>手に入らない・使い方がわからない</p> <p>「地元のものをもっと食べたいが、どこで買えるか、どう使えばいいかわからない」という声</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタルとアナログの両面から食文化を身近にするための情報発信 島の食材の「旬」と、それを使ったレシピを配信し、日常の調理につなげる ● 島の食材を「選び続ける意味」を伝える情報提供 スーパーや直売所に島の食材の選択を推進する意味を伝え、「選ぶ」意味を理解して日常的に購入する機運を醸成する ● 防災備蓄×日常食の推進 台風などの自然災害が多い地域の特性を活かし、島の食材を日常的に使いつつ、いざという時の備えにする仕組みをつくる など
しごと	<p>魅力が見えにくい</p> <p>しごとの大切さや、やりがいが見えにくくなっている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 奄美ブランドの再構築と誇りを獲得するブランド化の推進 生産者の技術や知恵などのこだわりをストーリー化し、価格以上の「納得感(価値)」を消費者に伝え、島民自身が島の食材の価値を再認識する「内発的ブランド化」の推進 ● 学校給食における「生産者訪問」と食育の強化 子どもたちが毎日食べる給食の食材を、誰が作っているのかを知る機会を増やし、次世代のファンと担い手を育てる ● 副業・兼業農家の登録・支援パッケージ 小規模でも「島のしごと」に関わりたい人向けに、出荷の仕組みや技術支援を提供し、生産の入口を広げる ● 生産×「加工」×販売の推進 生産と販売をつなぐ「加工」について、事業者間の連携等を図る など
つながり	<p>関わりたいが、方法がわからない</p> <p>「応援したいけれど、自分に何ができるかわからない」と感じる市民が多い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「結」によるサポート支援 収穫期の手伝いやイベント運営など、市民が自分のスキルや時間に合わせて「農」を支援できる仕組みづくり ● 「あまみ食と農のめぐみ博」の定例開催 生産者と消費者が直接交流し、島の食の価値を再確認するイベントを軸に、関わり続ける関係性を育む ● 多世代交流の「しまの食卓」ワークショップ 「伝統的な調理の知恵」を、若者や子どもたちが体験を通じて学ぶ場を日常的に設ける など



食と農の総合戦略は奄美の暮らしに息づく「食と農」を
日々の暮らしから、未来へと手渡していきます

発行 奄美市 2026年3月 <https://www.city.amami.lg.jp>

お問合せ 奄美市農林水産課 ☎0997-52-1111



△ HPはこちら